

OB会通信

2013年度 第一号
大阪府立大学陸上競技部

拝啓

梅雨に入り、暑さが増していく日々が訪れて来ました。OB・OGの皆様はいかがお過ごしでしょうか。私達、陸上部員は来る対校戦の勝利また、各選手権大会に向けて一丸となって日々練習に励んでおります。

さて、この度は大阪インカレ、三大戦、関西インカレの結果についてご報告させていただきます。

敬具



三大戦集合写真（金岡陸上競技場にて） 2013年4月21日

目次

1. 主将あいさつ

2. 主要試合結果報告

第61回大阪学生陸上競技校抗選手権大会

第58回大阪三大学対校陸上競技大会

第90回関西学生陸上競技対校選手権大会

3. その他の試合の結果

4. 各パート長あいさつ

1. 主将あいさつ

OB 通信ではじめて接点を持つことになる OB・OG さんもいらっしゃると思うので、この場を借りてあいさつをさせていただきます。今年1年間主将を務めさせていただくことになりました中野友揮です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今回の第1回OB会通信では大阪インカレ、大阪三大学対校戦、関西インカレを中心にご報告させていただきます。

今シーズンに向けて選手、マネージャー一丸となって厳しい冬期練習を積んできました。香川県丸亀にて行いました大阪市立大学、和歌山大学との合同合宿では質の高い練習ができ、とても充実した4日間を過ごすことができました。

4月初めの大阪インカレでは、3回生の宝徳が女子400mで決勝進出するなど、自己ベストを出す選手もいました。その後に行われた大阪三大学対校戦では男子総合3位、女子総合3位という結果となりました。6位を取る種目は少なかったのですが1位を取る種目も少なかったため、得点に差がついてしまったと思います。

4月24日と5月9日から12日に行われました関西インカレでは男子400m、男子4×400mR、女子400mで府大新記録を出し、男子走高跳では1位、2位を取ることができました。また、出場した多くの選手が出るだけでなく次のラウンドに進むことができました。府大陸上部が一丸となった結果だと思います。しかし、1部に昇格する大学と比較すると出場する人数がまだまだ少ないと感じました。

また、今年はやる気と実力のある1回生が入ってきてくれました。陸上部一丸となってまずは首都大学東京戦に勝利することを目標に努力していきたいと思います。これからも府大陸上部を見守ってくださるよう、どうぞよろしくお願いいたします。

文責 中野 友揮 (3)

2. 主要試合結果

☆は自己ベスト、★は大学ベスト

第61回大阪学生陸上対校競技選手権大会

4月4日、5日 長居第二競技場

グランドコンディション

4月4日 晴れ 21.8℃

4月5日 晴れ 25.5℃

男子100m

早川 哲史 (3) 予 11" 32 (-1.2m) (3着)

倉本 惇嗣 (2) 予 11" 58 ☆ (+0.9m) (6着)

嶋田 祥久 (2) 予 DNS

早川(3)はスタートで少し出遅れたように見えたが、中盤で勢いに乗りぐんぐんと伸びていった。結果はベストには及ばないが、本人の納得のいく試合となった。倉本(2)はスタートからおいていかれる形となったが、それでも食らいつき0"3もベストを更新するいい試合となった。両名とも何かつかむものがあったので、これからの記録の伸びに期待したい。

文責 片岡 裕 (2)

男子200m

樫本 涼	(3)	予	23" 98	(-0. 1)	(6着)
川越 俊幸	(3)	予	23" 13	(-0. 6)	(3着)
		準	23" 21	(+0. 3)	(5着)
嶋田 祥久	(2)	予	23" 40	(+1. 4)	(6着)

嶋田(2)はスタートからカーブまでの走りは良かったが、後半の失速が目立った。樫本(3)はスタートしてすぐに体が浮いてしまい納得のいく走りとはならなかったようだ。川越(3)は後半少し力んでしまったものの持ち前の粘りを見せ2着でゴールし準決勝へ進出した。準決勝では、400mHの疲れが見えたが力強い走りで予選とほぼ同タイムの成績を残した。

文責 倉本 惇嗣 (2)

男子400m

中野 友揮	(3)	予	52" 50	(4着)
高田 昌人	(2)	予	49" 49	(3着)
藤原 吉司	(2)	予	53" 29 ☆	(6着)

中野(3)はマイル後ということもありスピードに乗らないままフィニッシュした。高田(2)は100m付近で内側の選手に追いつかれるも持ち前の粘りを生かして組3着でほぼベストタイムの記録を出したが、惜しくも決勝進出はかなわなかった。藤原(2)は前半から格上の選手についていくも250m付近で勢いを失ってしまい、そのままゴールした。課題の残るレースになったが、自己ベストを更新したのでこれからの成長に期待したい。

文責 片岡 裕 (2)

男子800m

中野 友揮	(3)	予	1' 58" 31	(4着)
高田 昌人	(2)	予	2' 05" 31 ☆	(5着)

中野(3)は序盤から先頭集団について走り、2周目も離れることなく最終的に自己ベストに迫る結果となった。関西インカレA標準突破も期待できる見事な走りであった。高田(2)は400mH予選の直後であったにもかかわらず、その疲れを見せない見事な走りで健闘した。大学で初めての800mであったが、自身も納得のいくレースであった。

文責 二本松 立朗 (2)

男子1500m

遠藤 耀司 (3) 決 4' 20" 09 ☆ (28位)

西川 亮 (2) 決 4' 31" 57 (36位)

大松 達也 (2) 決 4' 44" 37 (42位)

遠藤(3)は、スタートから先頭集団につくも、中盤で集団がわかれた時に先頭から離れてしまった。しかし、しっかりと粘り、最後に素晴らしいスパートを見せた。西川(2)は、前日の3000SCの疲労が残っていたのか、スタートからついていけずに終始一人で走る展開となってしまった。大松(2)は、滑り出しは悪くなかったが、中盤で失速してしまった。

文責 勝見 涼一 (2)

男子5000m

小槻 日出夫 (3) 決 16' 35" 77 (21位)

北川 直昭 (3) 決 16' 40" 02 (22位)

勝見 涼一 (2) 決 16' 43" 12 ☆ (24位)

北川(3)は自身が目標とする15分台に届くペースの走りをする事ができず、3000mの通過時で9分40秒を上回った。さらにそこから失速し、最後の1000mも小槻についていけず、満足な結果を残すことができなかった。また小槻(3)は最近の調子の良さから15分台を期待されていたが、スタートから出遅れてしまい、序盤は北川の後ろについて走った。北川が失速してからは自身が前に出て北川、勝見の両名を引っ張ったものの、最初の出遅れを取り戻すには至らなかった。一方勝見(2)は序盤から終盤まで北川の後ろにつき、自身のベスト記録を大きく更新するかと思われたが、北川と同様に最後の1000mで切り替えることができず、ベスト記録を5秒縮めるにとどまった。

文責 西川 亮 (2)

男子10000m

北川 直昭 (3) 決 36' 32" 73 (22位)

高尾 信成 (3) 決 37' 29" 85 (24位)

北川(3)は、序盤いい位置でレースを展開させることが出来たが、中盤から終盤にかけてややペースが乱れてしまい思うような結果ではなかったものの、序盤の勢いは可能性を見せる走りであった。高尾(3)は自分の走りでもりに惑わされないレースだった。しかし、中盤から徐々に失速してしまい自己ベストとは遠い結果となってしまった。自分の力を発揮出来ない試合となったので、次回に期待したい。

文責 二本松 立朗 (2)

男子400mH

小川 潤	(4)	予	57" 98	(4着)
川越 俊幸	(3)	予	55" 47	(3着)
高田 昌人	(2)	予	59" 74	(8着)

小川(4)は、調整不足によるハードリングのミスによりタイムが伸び悩んだ。川越(3)は、前半からスピードにのれてハードルをスムーズに飛んでいきレースの流れを掴んでいたが、過密日程による疲れが少し後半に見られた。高田(2)は、ハードルを飛ぶことに苦心した分を、走力で補うことが出来なかった。川越(3)は自己ベストまた、小川(4)、高田(2)は調整不足によるものということ considering 今後の走りに期待したい。

文責 嶋田 祥久 (2)

男子3000SC

北川 拓哉	(M2)	決	9' 59" 50	(9位)
西川 亮	(2)	決	10' 09" 15	(11位)
二本松 立朗	(2)	決	10' 47" 66	(16位)

序盤は3人同じ速いペースでタイムを刻んでいたが、徐々にばらつき各々が自分のペースで走るようになった。西川(2)は北川(M2)についていき、粘りの走りを見せた。二本松(2)は少々暑いコンディションもあつてか、後半減速してしまい悔しい結果となった。まだ、シーズン序盤であるので3名の今後のさらなる躍進に期待したい。

文責 難波 真理 (2)

男子4×100mR

大阪府立大学 (倉本(2)－早川(3)－樫本(3)－高田(2))
予 43" 35 (6着)

一走の倉本(2)は自己ベストを出した調子を生かし、スムーズにスピードに乗ることが出来、上手くバトンを繋いだ。早川(3)はエース区間の責任を果たし、しっかりと他校と競り合っていた。樫本(3)は、安定した走りで着実にバトンを繋いだ。高田(2)は持ち前の粘り強さを見せたが追い上げることはかなわなかった。

文責 大松 達也 (2)



4 × 100 mR を走る高田（2）（写真左奥）

男子 4 × 400 mR

大阪府立大学（川越（3）－中野（3）－高田（2）－小川（4））

予 3' 21" 56 （4着）

決 3' 24" 79 （7位）

予選では3人がラップ50"を切り、高田（2）が48"で走るなど見応えのあるレース展開で決勝に進んだ。決勝では、1走の川越（3）が勢いを作りその流れを受けた3人がうまくバトンを繋ぐ展開となった。

文責 勝見 涼一 （2）

男子走高跳

田中 英和 (4) 2 m 0 0 (3位)
片岡 裕 (2) 1 m 9 0 (11位)

田中(4)は、最初の1 m 8 5を一度失敗するも、その後は2 m 0 0まで失敗することなく跳躍した。だが2 m 0 5で力を出せず、不本意な結果に終わってしまった。一方、片岡(2)は1 m 8 5と1 m 9 0でそれぞれ二回失敗するも三回目で成功させる。そして自己ベストである1 m 9 5に挑戦するも成功とはならなかった。試合後、次回はもっと安定した跳躍をしたいと語っていた。次回の試合にぜひ期待したい。

文責 西川 亮 (2)

男子走幅跳

保科 政幸 (4) 6 m 1 7 (-0.5) (21位)
大黒 貴弘 (3) 6 m 7 5 (+0.0) (10位)
仲西 穂高 (3) 5 m 9 0 (-1.5) (24位)

保科(4)は忙しく、あまり練習できていなかったためか、2回のファウルもあり、6 m 1 7という結果に終わった。大黒(3)は、1本目に手応えのある跳躍をするが惜しくもファウルとなり、最終的に決勝進出まで9 cmに迫る6 m 7 5となった。仲西(3)は、踏み切りを合わせに行ってしまい、スピードに乗りきれなかった。

文責 前田 玲実 (2)

男子三段跳

大黒 貴弘 (3) 1 3 m 0 0 (+0.4) (18位)

大黒(3)は、1本目は助走の足が合わずファールとなったが、2本目では1 2 m 1 1と記録は振るわなかったものの、助走と跳躍を確認し手応えを掴んだようであった。その結果、3本目では若干足が合わなかったものの、1 3 mを出すことが出来た。内容は今後の成長を期待させるものであり、跳躍パート長として、また陸上を楽しむ一個人として今シーズン、大きな飛躍を見せてほしい。

文責 藤原 吉司 (2)

男子やり投

大黒 貴弘 (3) 47m94 (16位)

大黒(3)は、ステップを工夫するも、上手く合わせる事ができず、関カレB標準の50mには届かなかった。しかし、今シーズンも始まったばかりであり、今後の活躍に期待したい。

文責 前田 玲実 (2)

十種競技

山口 裕太 (2) 5526点 ☆

100m: 11"93 ☆ (+0.4) (665)

自身が苦手とする100mであったが、初の11秒台となり、自己ベストを出して勢いに乗る。

走幅跳: 6m09 (+0.2) (606)

飛ぶごとに専門選手のアドバイスを参考に記録を伸ばし、ベストへあと2cmへと迫る6m09を記録した。

砲丸投: 9m99 (485)

冬場のウエイトの成果が現れ、自己ベストを大きく上回り更に勢いに乗る。

走高跳: 1m83 (653)

自己ベストとはならなかったものの悪くない跳躍、高さにまだ余裕があった分悔しそうであった。

400m: 52"20 ☆ (716)

普段の力む癖が現れず、大学ベストを記録し一日目の勢いを切らさなかった。3125点で一日目を終えた。

110mH: 16"12 ☆ (-0.7) (719)

一日目の疲労のためすでに体は筋肉痛だらけであったが攻めのハードリングで自己ベストを出し、前日の波に乗った。

円盤投: 23m28 (334)

練習を全くやっていなかったため本番では力んでしまい記録としては全く伸びなかった。

棒高跳: 3m00 (357)

自己ベストはクリアしたものの空中動作の練習不足のため、それ以上記録を伸ばすことが出来なかった。

やり投：33m65 (351)

練習不足が目に見えて、槍先がすぐに上に向いてしまう悪い投擲で自身の自己ベストを10m以上回ってしまい予定の点数を大きく取りこぼしてしまった。

1500m：4'46"47 (640)

1周目で突っ込み過ぎてバテてしまったもののラストスパートで出しきり、目標タイムをクリアした。

最終得点を5526点で終わり関西インカレA標準を突破したものの一部のA標準を目指していただけに悔しそうであった。関西インカレでは彼の伸びに期待したい。

女子200m

宝徳 奈津美 (3) 予 27"03 (-1.8) (6着)

難波 真理 (2) 予 29"63 (+2.5) (7着)

宝徳(3)は、スタートに課題が残ったが持ち前のスピードと粘り強さで関カレB標準を切る好成績を残した。難波(2)は、前半からスピードに上手く乗りきれず思っていた走りはできなかったようだ。

文責 倉本 惇嗣 (2)

女子400m

宝徳 奈津美 (3) 予 59"79 (3着)

決 1'00"81 (8位)

宝徳(3)は、安定した走りをみせ学連記録会での自己ベストに続き、今回もそれに近い記録で走った。更に、タイムで拾われ決勝に進出した。決勝では、タイムは伸びなかったものの、決勝で走れたのは良い経験となったようだ。

文責 片岡 裕 (2)

女子4×100mR

大阪府立大学（星合（2）－宝徳（3）－前田（2）－難波（2））

決 53" 27 （8位）

1走の星合（2）が七種競技の前半を終えてのスタートとなった。疲労のため、歩数を調節したが、それに戸惑うことなくスムーズにバトンが渡った。2走の宝徳（3）は、役割をしっかりと果たし、良いラップタイムで次の前田へとバントをつないだ。3走の前田（2）は、宝徳の声が上手く聞き取れないながらも、練習通りにスタートを切ってしっかりとバトンを受け取り、4走へとつないだ。4走の難波（2）は、少しピッチが足りないようだったが、全員が気持ちよく走ることが出来た。タイムも53" 27とベストを更新した。このチームでは今回が3度目となり、走るたびにタイムを更新し、また、ほとんどが2回生というチームであるため今後活躍に期待したいところだ。

文責 三好 円香 （2）

女子走幅跳

前田 玲美 （2） 決 3m97 （+0.3） （20位）

確実に助走を合わせ3本とも記録を残し、自己ベストタイの結果を出す安定した跳躍を見せた。今後、スピード不足などの課題解決による成長に期待したい。

文責 高田 昌人 （2）

七種競技

星合 里香 （2） 2859点 ☆

100mH: 19" 39 （+0.0） （355）

本人が最も苦手意識を持っている種目であり、直前の練習でも転倒する場面もあったが、なんとかゴールすることが出来た。今後、ハードリング技術の向上が必須である。

走高跳: 1m25 （359）

余裕をもって1m10から試技を開始し、1m25までは1本目でクリア。1m30の3本目は惜しい跳躍であったが、足がバーにあたってしまう成功とはならなかった。

砲丸投：8m77 (449)

1投目で自己ベストを1m更新する8m77を投げた。2、3投目は記録を伸ばすことが出来なかったが、三大戦の砲丸投げに向けて勢いをつけるベスト更新となった。

200m：29"11 (+0.0) (546)

1日目の最終種目ということで疲れも溜まっており、スタートから上手く加速するも120m付近から徐々に足が止まり、ベスト記録から約1秒遅いタイムとなってしまった。

走幅跳：4m18 (+0.7) (350)

前日の疲れが抜けきっておらず、全く足が合わずに苦しんだ。ベスト記録ではあるが、踏切を手前で踏み切ったときの記録であり実測では4m40ぐらいであったためもったいない結果となった。

やり投：32m05 (515)

本人が専門としている種目であり、高記録が期待されたが、肘の故障前の高校ベストには5m以上及ばなかった。しかし、関カレB標準はなんとか突破することが出来た。

800m：3'09"07 (285)

最終種目である800mは元々持久力がない上に、ここまでの疲労も重なり序盤から非常に苦しいレースとなった。800mのための持久力と7種目をこなすための体力をつけることが今後の課題である

《応援・競技に参加して頂いたOB・OGの皆さま》

北川さん、山下さん、渡部さん、小池さん

お忙しい中、お越しいただきありがとうございました。

第58回大阪三大学対校陸上競技大会

4月21日 金岡陸上競技場
グランドコンディション 晴れ

男子100m

大会記録 10" 95

(+1.6)

- | | | | |
|---------------|--------|----------------|--------|
| 1. 木野 哲哉 (市大) | 11" 11 | 2. 藤原 健太郎 (市大) | 11" 16 |
| 3. 山田 遼作 (阪大) | 11" 21 | 4. 内賀嶋 陽史 (府大) | 11" 26 |
| 5. 早川 哲史 (府大) | 11" 27 | 6. 脇田 和史 (阪大) | 11" 35 |

府大 5点 阪大 5点 市大 11点

強風が吹き荒れ気温が低い中行われた100m、早川(3)、内賀嶋(4)共にスタートを飛び出した。早川(3)は、中盤にも粘りを見せ大学ベストを叩き出した。内賀嶋(4)は、持ち前の勝負強さで走り切ったがタイムは振るわなかった。

文責 嶋田 祥久 (2)

男子400m

大会記録 48" 39

- | | | | |
|---------------|--------|----------------|--------|
| 1. 高田 昌人 (府大) | 49" 60 | 2. 秋本 耕作 (阪大) | 49" 94 |
| 3. 寺尾 柊人 (市大) | 50" 49 | 4. 木場 翔一朗 (市大) | 50" 86 |
| 5. 伊藤 駿 (府大) | 51" 82 | 6. 尾野 礼 (阪大) | 52" 04 |

府大 8点 阪大 6点 市大 7点

高田(2)はスタート直後先頭から少し出遅れるが、ラスト100mで怒涛の追い上げを見せ、見事1位でゴールした。試合後目標通りの自分の満足のいく走りができたと語っていた。今後の活躍にも期待したい。一方、伊藤(2)は1レーンからスタートし、前半は攻める走りをするも中盤で前4人に差を開けられ、後半追い上げるかに思われたが前に追いつくことはできず5位となった。

文責 西川 亮 (2)



400mを走る高田（2）（写真左から2番目）と伊藤（2）（写真左から5番目）

男子1500m

大会記録 4' 02" 65

- | | | | |
|--------------|-----------|--------------|-----------|
| 1. 亀坂 晃司（市大） | 4' 02" 65 | 2. 秋本 耕作（阪大） | 4' 03" 00 |
| 3. 大竹 宏明（阪大） | 4' 04" 37 | 4. 甲木 孝弘（府大） | 4' 08" 35 |
| 5. 近田 昌志（市大） | 4' 12" 90 | 6. 村上 将悟（府大） | 4' 25" 29 |

府大 4点 阪大 9点 市大 8点

大会記録がでた今大会は序盤からハイペースでレースが進み、甲木（M1）は集団の後方で走る苦しい展開となった。レース終盤、甲木（M1）は持ち前の粘り強さを見せなんとか4位に食い込んだ。しかし、村上（2）は前半のハイペースが響いてか失速してしまい、6位という苦しい結果に終わった。

文責 伊藤 駿（2）

男子5000m

大会記録 14' 55" 06

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 酒井 健 (阪大) 15' 36" 63 | 2. 近田 昌志 (市大) 15' 39" 51 |
| 3. 森田 崇聖 (阪大) 15' 47" 25 | 4. 甲木 孝弘 (府大) 15' 57" 40 |
| 5. 中野 友揮 (府大) 16' 30" 25 | 6. 黒野 佳秀 (市大) 16' 33" 26 |

府大 5点 阪大 10点 市大 6点

甲木 (M1) は周りに流されず自分のペースで後方から順位を上げ3位争いを繰り広げるが、この日2種目ということもあり徐々に疲れが見えはじめ苦しい展開となった。一方、中野 (3) は、終始5位の選手に食らいつき、ラスト200mでスパートをかけもち前の勝負強さを遺憾なく発揮した。関西インカレでは、専門種目の800mで更なる飛躍に期待したい。

文責 村上 将悟 (2)

男子4×200mR

大会記録 1' 28" 32

1. 大阪市立大学 (藤原-木野-堀-亀坂)
2. 大阪大学 (秋本-山本-出口-山田)
3. 大阪府立大学

(早川 (3) -高田 (2) -内賀嶋 (4) -小川 (4)) 1' 37" 53

府大 6点 阪大 3点 市大 0点

一走の早川 (3) は、持ち前の加速力を生かし、他の走者と互角以上のレースを見せた。二走の高田 (2) は、粘りのあるレースを見せ、他走者をしっかりと捉えつつ、バトンをつなぐことに成功した。三走の川越 (3) から、オープンレーンとなったが、阪大の走者と競った際に、バトンを弾かれてしまい、大きく差をつけられ、四走の小川 (4) は3着でゴールした。アクシデントが起こるまで、他の大学と互角の戦いができていたため、非常に悔しい結果であった。しかし、府大短距離組の勢いが伝わってくる良いレースであった。今後の活躍に期待したい。

文責 藤原 吉司 (2)

男子走高跳

大会記録 2m16

1. 田中 英和 (府大)	2m00	2. 田谷野 義孝 (阪大)	1m90
3. 片岡 裕 (府大)	1m85	4. 吉武 真人 (阪大)	1m80
5. 森 拓士 (市大)	1m75	6. 加納 弘崇 (市大)	1m50

府大 10点 阪大 8点 市大 3点

走高跳びは風が強い中での競技となった。田中（4）は2m00まで失敗することなく跳躍し、その時点で1位が確定する。だが2m05で力を出せず、記録をのぼすことはできなかった。前回の試合より調子自体は上がっているようなので次回の記録に期待したい。

一方、片岡（2）は助走が安定せず、途中何回か失敗しつつ、1m85まで記録を伸ばすも、1m90で3回ミスし、結果3位で終わった。目標としていた2位をとれず、満足のない結果となった。

文責 西川 亮 (2)

男子走幅跳

大会記録 7m44

1. 大黒 貴弘 (府大) ☆	7m00	2. 渡辺 祥 (阪大)	6m76
3. 菅沼 佑太 (市大)	6m50	4. 岩波 智之 (市大)	6m49
5. 中村 洋文 (阪大)	6m42	6. 仲西 穂高 (府大)	6m19

府大 7点 阪大 7点 市大 7点

大黒（3）、仲西（3）ともに上手く風に乗り良い跳躍を連発した。特に大黒（3）は、追い風参考ながらも自己ベストを叩きだした。この調子を維持して関カレでの活躍に期待したいところである。

文責 嶋田 祥久 (2)

男子三段跳

大会記録 15m32

1. 岩波 智之 (市大)	14m62	2. 松崎 道弘 (阪大)	14m30
3. 矢野 達也 (府大)	14m24	4. 渡辺 祥 (阪大)	13m92
5. 田中 英和 (府大)	11m67	6. 菅沼 佑太 (市大)	DNS

府大 6点 阪大 8点 市大 6点

矢野（4）は忙しくあまり跳躍練習ができていないのもあり、はじめは助走がなかなか合わなかったが、14m越えとなりベストに迫る跳躍であった。田中（4）は専門外で高跳直後の跳躍であったが5位に入賞し得点に貢献した。

文責 難波 真理 (2)

男子砲丸投

大会記録 14m10

- | | | | |
|-----------------|-------|----------------|-------|
| 1. 福井 康太 (阪大) | 11m24 | 2. 芦田 尚都実 (市大) | 10m83 |
| 3. 山口 裕太 (府大) ☆ | 10m43 | 4. 中澤 密 (阪大) | 10m38 |
| 5. 奥野 輝基 (府大) | 10m34 | 6. 田中 貴大 (市大) | 9m85 |

府大 6点 阪大 9点 市大 6点

山口 (2) は十種競技の経験を生かし、大カレ以降投擲練習をおこなっていたために自己ベストを大きく上回る10m代を叩きだし、3位と貢献した。奥野 (4) は、あまり練習をできていないために上手く力を出すことが出来ずに悔しい結果に終わった。

文責 勝見 涼一 (2)

男子円盤投

大会記録 40m02

- | | | | |
|-----------------|-------|---------------|-------|
| 1. 徳永 卓朗 (阪大) | 33m55 | 2. 植田 誠史 (市大) | 25m86 |
| 3. 山口 裕太 (府大) ☆ | 25m70 | 4. 上野 智博 (市大) | 24m60 |
| 5. 保科 政幸 (府大) | 23m11 | 6. 中澤 密 (阪大) | NM |

府大 6点 阪大 6点 市大 8点

保科 (4) と山口 (2) が出場し、両選手ともにこの日3種目目であった。保科 (4) は、専門種目ではないが、しっかり記録を残し、23mを超える投擲であった。山口 (2) は自己ベストを2m以上も更新し、25m70という結果となった。二人の今後の記録の伸びに期待したい。

文責 前田 玲実 (2)

男子やり投

大会記録 62m84

- | | | | |
|---------------|-------|---------------|-------|
| 1. 中澤 密 (阪大) | 62m86 | 2. 神田 直仁 (阪大) | 57m88 |
| 3. 上野 智博 (市大) | 54m63 | 4. 大黒 貴弘 (府大) | 46m38 |
| 5. 角谷 明洋 (市大) | 43m98 | 6. 山口 裕太 (府大) | 41m70 |

府大 4点 阪大 11点 市大 6点

大黒 (3) は、走り幅跳びと競技時間帯がかぶっており、思い通りの動きができないながらも4位と健闘した。山口 (2) は練習不足に泣き、6位に沈んだ。

文責 高田 昌人 (2)

女子 100m

(+1. 4)

1. 宿院 璃沙 (市大)	13" 10	2. 脇本 沙友美 (阪大)	13" 17
3. 宝徳 奈津美 (府大)	13" 23	4. 巖 恵理 (市大)	13" 42
5. 馬越 茉鈴 (阪大)	13" 56	6. 難波 真理 (府大)	14" 32

府大 2点 阪大 3点 市大7点

宝徳(3)は、まずまずのスタートを切り、終盤もスピードを落とすことなく3着でゴールした。難波(2)は、終盤失速してしまい、他の選手たちに遅れてしまい苦しい走りとなってしまった。

文責 大松 達也 (2)

女子 800m

1. 巖 恵理 (市大)	2' 26" 62	2. 炭谷 佳奈 (府大)	2' 26" 84
3. 平川 菜央 (阪大)	2' 28" 52	4. 後井 彩 (阪大)	2' 29" 76
5. 宝徳 奈津美 (府大)	2' 34" 69	6. 高石 真紀 (市大)	2' 46" 81

府大 3点 阪大 4点 市大 3点

炭谷(1)は、大学に入って初の試合であったが、周りに圧倒されることなく終始攻めの姿勢でレースを展開でき、後半での追い上げは見事であった。着順2位という素晴らしい結果で終え、これからの試合でも期待の持てるものとなった。

文責 二本松 立朗 (2)

女子4×200mR

1. 大阪大学 1' 55" 35
2. 大阪市立大学 1' 56" 32
3. 大阪府立大学

(星合(2) - 宝徳(3) - 前田(2) - 難波(2)) 1' 56" 91

府大 0点 阪大 4点 市大 2点

一走の星合(2)は、序盤から果敢に攻め、他走者と互角のレースを見せた。二走の宝徳(3)、持ち味の筋持久力を生かし、他大学の猛者にしっかりくらい付くことができた。三走の前田(2)は、阪大に差を詰められつつも、最後まで諦めずに逃げ切った。四走の難波(2)は、前の市大の選手の後ろにピタリと付き、粘りのあるレースを見せたが、最後に阪大の選手が怒涛の追い上げを見せ、3着でフィニッシュ。結果は満足できるものではなかったが、女子選手の人数での劣りを感じさせないレースが出来たことは、今後のリレーに対して、大きな自信となったことであろう。今後の女子選手達の活躍に期待したい。

文責 藤原 吉司 (2)

女子走幅跳

- | | | | |
|---------------|---------|---------------|-----------|
| 1. 石飛 沙織 (市大) | 4 m 8 1 | 2. 馬越 茉鈴 (阪大) | 4 m 8 1 |
| 3. 宿院 璃沙 (市大) | 4 m 6 4 | 4. 松村 侑海 (阪大) | 4 m 3 1 |
| 5. 星合 里香 (府大) | 4 m 2 9 | 6. 前田 玲実 (府大) | 4 m 1 0 ☆ |

府大 0点 阪大 4点 市大 6点

星合(2)は、上手く助走を合わせられなかったものの、着実に記録を残した。しかし、結果は5位と振るわなかった。前田(2)は、着実に助走を合わせ、上手く跳躍することが出来、自己ベストを叩きだすも6位と沈んでしまった。

文責 嶋田 祥久 (2)

女子砲丸投

1. 星合 里香 (府大) 8 m 9 5 2. 小西 由夏 (阪大) 7 m 9 4
 3. 馬越 茉鈴 (阪大) 7 m 9 4 4. 巖 恵理 (市大) 7 m 5 7
 5. 伊藤 愛慧 (市大) 6 m 4 4 6. 前田 玲美 (府大) 5 m 9 6

府大 4点 阪大 5点 市大 1点

星合(2)は、やり投げの経験を生かししっかりと砲丸を投げきった。少し、疲労は見えたものの一人8m代を出し他を寄せ付けず1位をつかみとった。前田(2)は、自身初めての出場ということもあり、緊張してか思うような結果を出すことは出来なかった。

文責 勝見 涼一 (2)

総合成績

男子対抗

	大阪府立大学	大阪大学	大阪市立大学
トラック合計	22	33	38
トラック順位	3	2	1
フィールド合計	39	49	36
フィールド順位	2	1	3
総合得点	61	82	74
総合順位	3	1	2

女子対抗

	大阪府立大学	大阪大学	大阪市立大学
トラック合計	5	17	14
トラック順位	3	1	2
フィールド合計	4	9	7
フィールド順位	3	1	2
総合得点	9	26	21
総合順位	3	1	2

オープンの部

100m	渡部 翔太 (M1)	11" 33	(+0.1)
	保科 政幸 (4)	11" 59	(+0.1)
	倉本 惇嗣 (2)	11" 94	(+0.3)
	岡本 真 (府大OB)	12" 15	(+0.3)

200m	檜本 涼 (3)	23" 79	(+3.0)
	大黒 貴弘 (3)	23" 17	(+3.0)
400m	岡本 真 (府大OB)	54" 84	
1500m	遠藤 耀司 (3)	4' 27" 07	
	大松 達也 (2)	4' 55" 09	
5000m	北川 拓哉 (M2)	16' 49" 63	
	山下 翔平 (M1)	18' 06" 28	
	北川 直昭 (3)	16' 56" 11	
	小槻 日出夫 (3)	16' 28" 09	
	高尾 信成 (3)	17' 43" 87	
	勝見 涼一 (2)	16' 48" 87	
	二本松 立朗 (2)	16' 52" 23	
4×200mR	関電ブラザーズ師匠 (甲木 (M1) - 奥野 (4) - 内賀嶋 (4) - 北川 (M2))	1' 48" 97	
	チーム機械工+α (保科 (4) - 高原 (4) - 山下 (M1) - 渡部 (M1))	1' 40" 99	
走幅跳	保科 政幸 (4)	6m09	(+2.2)
三段跳	大黒 貴弘 (3)	13m15	(+2.0)

《応援・競技に参加して頂いたOB・OGの皆さま》

山口さん、辻本さん、岡本さん、野々口さん、北川さん、小川さん、赤坂さん、小池さん、
関岡さん、藤間さん、藤本さん、弓場さん、甲木さん、山下さん、渡部さん、

お忙しい中、お越しいただきありがとうございました

第90回関西学生陸上競技対校選手権大会

4月24日 長居周回
5月9日、10日、11日、12日 長居第一競技場
グランドコンディション

4月24日	雨	17.0℃
5月9日	晴れ	25.1℃
5月10日	曇りのち雨	23.5℃
5月11日	雨	19.9℃
5月12日	晴れ	25.0℃

男子100m

早川 哲史 (3) 予 11" 13 (+0.0) (3着)
準 11" 26 (-0.1) (7着)

早川(3)は、良いスタートとはいかなかったものの持ち前の加速、スピードをいかに
なく発揮し自己ベストを更新し、準決勝へと進出した。準決勝では、少し力みが見え、予
選ほどの走りはできなかった。

文責 倉本 惇嗣 (2)

男子200m

早川 哲史 (3) 予 22" 86☆ (-0.1) (6着)

早川(3)は、勢いのあるスタートを切り、ホームストレートで力んでしまったものの、
自己大学ベストとなる22" 86を出した。今後の、タイムの向上が期待できる走りであ
った。

文責 高田 昌人 (2)

男子400m

高田 昌人 (2) 予 48" 27 ☆ (2着)
決 48" 33 (3位!)

予選では、前半はリラックスし後半に粘りをみせるという持ち前の走りで自己ベストを大きく更新し決勝へ進出した。決勝では、周りに上回生しかいない中で積極的なレースで見事3位に入賞した。今後の更なる活躍に期待した。

文責 伊藤 駿 (2)

男子800m

中野 友揮 (3) 予 1' 58" 87 (2着)
準 2' 00" 89 (8着)
伊藤 駿 (2) 予 1' 56" 19 ☆ (4着)
準 2' 05" 07 (8着)

中野 (3) は、予選では前半しっかりと先頭集団についていきリラックスしていた。後半、集団のペースアップにもしっかりと対応しラストをしっかりと上げきり見事2着で入った。準決勝では、前半はリラックスしていたが、予選の疲れが残っていたのか、後半失速し、そのまま上げきる事ができなかった。伊藤 (2) は、ハイペースのレース展開で前半は少し遅れを取ったが、600mあたりからスパートをかけ追い上げ自己ベストを叩きだした。準決勝では、力を出し切ることができなく残念な結果に終わってしまった。

文責 大松 達也 (2)

男子1500m

甲木 孝弘 (M1) 予 4' 03" 51 (5着)
村上 将悟 (2) 予 4' 13" 37 (8着)

甲木 (M1) は最初の1周を65秒で通過し、先頭集団の後ろに付くも、その後ついて行ききれずにラスト300メートルを46秒で走りスパートをかけるも、結果は5位で決勝に進むことはできなかった。しかし自分が思っていた以上のタイムが出せたようであるため、今後の活躍に期待したい。村上 (2) は終始1周67秒ペースを保ち、自分のペースでレースを展開するも、ラスト300メートルでスパートをかけられず、51秒とそのままのペースでゴール。結果8位となり決勝には進むことができなかった。レース後、途中までのペースには納得がいくようであったが、やはり最後で上げきれなかったことを悔しがっていた。今回のレースを糧にし、次の試合でより良い結果を出すことを期待したい。

文責 西川 亮 (2)

男子5000m

小槻 日出夫 (3) 決 16' 21" 70 (31位)

小槻(3)は序盤から積極的に集団に食らいつき、最初の1000mのラップを3分で通過する勢いのレースを展開したが、3000mを過ぎたあたりから疲れが見え始め結果的にはベストには及ばなかった。しかし、この大舞台での経験は、次のステップに進むための大きな礎となるだろう。

文責 二本松 立朗 (2)

男子110mH

内賀嶋 陽史 (4) 予 14" 93 (-0.4) (2着)

決 14" 84 (-0.5) (4位)

大学生としての最後の関西インカレでの内賀嶋(4)の走りは、就活明けであることを感じさせない力強いものであった。うまくスタートを切り良い流れでハードリングをこなし、大きなミスなく走り終え、決勝へと駒を進めた。内賀嶋は、予選同様、落ち着いてレースに臨んだ。レース中盤、両隣の選手が前に出るも、力まずに走りきることができた。結果は、惜しくも表彰台を逃す形となったが、周りのレベルが高くなってきていること、最低限の走りはできたことを確認できたようである。全日本個人選手権や対校戦での、今後の活躍にも期待したい。

文責 藤原 吉司 (2)

男子400mH

川越 俊幸 (3) 予 56" 03 (2着)

決 55" 41 ☆ (7位)

川越(3)は、予選ではしっかりとハードルをクリアしていったが、最後の一台のハードルを上手く合わせる事ができなかった。しかし、最後まで粘り2着で入り決勝に進出した。決勝では、予選の反省をいかしたレースで、最後まで粘りきった。順位は悔しいものとなったが、自己ベストをだしているので今後の記録に期待したい。

文責 大松 達也 (2)



400mHを走る川越（3）（右から3人目）

男子3000SC

北川 拓哉（M2） 決 9' 56" 38 （14位）

北川（M2）は自身の豊富な経験を活かし、落ち着いたレースをする。周りに左右されることなく自分の走りを貫き、結果は自己ベストには及ばなかったものの、これからの復活が期待できる走りであった。

文責 二本松 立朗 （2）

男子4×100mR

大阪府立大学（早川（3）－内賀嶋（4）－倉本（2）－渡部（M1））

DNF

絶好調の早川は勢いよくスタートし後続を離したが二走とのバトンが合わず惜しい結果となった。次の機会には、しっかりとバトンを繋いで結果を残せることに期待したい。

文責 嶋田 祥久 （2）

男子4×400mR

大阪府立大学 予（早川（3）－中野（3）－伊藤（2）－高田（2））

決（川越（3）－中野（3）－伊藤（2）－高田（2））

予 3' 19" 13 （1着）

決 3' 18" 12 ☆ （4位） 府大記録！

予選は3走の伊藤（2）、4走の高田（2）の2回生コンビで順位を上げ、一着でゴールし決勝進出を決めた。決勝は1走を川越（3）に変更。予選同様、後方から追う展開となったが、3位との差を詰めることができず、惜しくも表彰台を逃した。しかしこの記録は府大新記録であり、今後もさらなる記録の更新が期待される。

文責 村上 将悟 （2）

男子走高跳

渡部 翔太（M1） 2m00 （2位！）

田中 英和（4） 2m03 （1位！）

片岡 裕（2） 1m85 （13位）

競技中は雨が降っていた。渡部（M1）は、競技のはじめのほうでミスをしていたが、しっかりと修正をしてベストのパフォーマンスを見せてくれた。田中（4）は、雨と寒さに負けないすばらしいジャンプを見せて、1位をとった。片岡（2）は、自己ベストとならなかったが、今後の活躍につながるいい経験を得たのではないかと思った。

文責 勝見 涼一 （2）

男子走幅跳

大黒 貴弘（3） 6m69（+0.0）（8位）

走幅跳には大黒（3）が出場した。雨の中、助走があわず本来の跳躍が出来なかった。ベスト8に残った後も、踏切があわず記録を伸ばせなかった。今季に入り、追い風参考ではあるが7mを跳んでいるため、公認での7m越えの記録に期待したい。

文責 前田 玲実 （2）

男子三段跳

矢野 達也 (4) 1 3 m 0 5 (+ 0. 0) (2 1 位)

あまり練習に來られていないということもあり、助走の足が合わずベストに遠い跳躍と
なってしまった。今後の本来の跳躍が見られることに期待したい。

文責 難波 真理 (2)

男子砲丸投

奥野 照基 (4) 9 m 9 8 (1 1 位)

あまり練習ができていなく、また大きな舞台で緊張の為か動きが固く、本来の投擲をす
ることができなくて悔しい結果となってしまった。

文責 大松 達也 (2)

男子十種競技

山口 裕太 (2) 5 4 9 2 点

1 0 0 m : 1 2 " 1 2 (- 0. 7) (6 2 8)

スタートから出遅れてしまい、後半も加速できずに終わってしまった。今後は、安定し
た走力を身に付けることが課題である。

走幅跳 : 6 m 2 3 ☆ (- 0. 7) (6 3 7)

1 0 0 m を走った直後であったものの、1 本目でしっかり記録を残した。その直後は、
踏切を上手く合わせられなかったが、1 本目の 6 m 2 3 は自己ベストであり、今後更に記
録が伸びることに期待したい。

砲丸投 : 9 m 6 5 (4 6 5)

1、2 投目は動きが噛み合わなかったが、3 投目に少し記録を伸ばし、9 m 6 5 を出し
た。今後の課題は、しっかりと初めから合わせられることであろう。

走高跳 : 1 m 8 3 (6 5 3)

1 m 8 3 までは疲れを感じさせることなく軽い跳躍を見せたが、1 m 8 6 でリズムが狂
い合わせることが出来なかった。

400m： 52" 24 (714)

400mは一日目の最終種目であった。他の種目では思うような結果が出ない中でのレースとなった。苦しい走りとなったが、まずまずのタイムが出たようだ。

110mH： 16" 41 (-0.8) (687)

十種競技二日目の最初の競技に臨んだ山口(2)は、「一日目の結果から気持ちを切り替える」としてレースに臨んだ。結果としては、前回の大阪インカレの16.12には及ばず、得点も30点ほど落とした形となった。原因としては、大阪インカレの時に弱点となった、フィールドの種目に調整期間を捧げたため、ハードルの練習不足が考えられる。しかし、それ以上に今回の彼を苦しめたのは、種目ごとの気持ちの切り替えの難しさであろう。今後、精神面での強さも培って、二日間勇猛果敢に競技に取り組めるような選手になることを期待したい。

円盤投げ： 23m38 (336)

練習不足もあり2投連続でファールとなってしまう。3投目は記録を残すためにおきに行ってしまったのが残念である。もっともっと練習すれば、今後ますます活躍できると期待がかかる。

棒高跳： 2m60 (264)

日頃の練習不足が影響してか、空中動作が安定せず、自己ベストの-40cmの2m60で終了した。まだまだ記録向上を目指せるので、これからの記録を見守っていきたい。

やり投げ： 39m47 (434)

10種の終盤ということで疲れもあってか、40m越えとならずベストとは離れた結果になってしまった。今回の試合を生かして、今シーズンの更なる活躍に期待したい。

1500m： 4' 41" 64 (674)

レース前にラップを計算し、目標を決めていた通りに刻むことが出来、ラスト1周も切り替えることができたようだった。

女子200m

宝徳 奈津美 (3) 予 26" 69 ☆ (+0.0) (7位)

宝徳(3)は、全体を通して体が良く動いていた。特に、後半の伸びがよく、ベストを更新する結果となった。

文責 高田 昌人 (2)

女子400m

宝徳 奈津美 (3) 予 58"64 (5着)

前半からリラックスをしつつ、スピードをあげていった。後半少し失速するも持ち前の粘り強さで最後まで走りきっていた、学連以降、安定した走りを見せているので今後の更なる活躍に期待したい。

文責 大松 達也 (2)

女子やり投

星合 里香 (2) 32m17 (32位)

一投目は全助走で臨んだものの足首への負担が大きく全力で投げきれなかった。二投目はそれを改善すべく短助走で臨むもスピードがなく距離が伸びない。三投目は悔いの残らぬよう全助走で投げたが上手くハマらなかった。結果としては一投目の32m17が一番だった。自己ベストには程遠いが、これからの練習で感覚を戻し、自己ベストを更新してもらいたい。

文責 山口 裕太 (2)

対抗得点結果

男子2部総合得点 大阪府立大学 33.5点 第8位

男子2部トラック得点 大阪府立大学 18点

男子2部フィールド得点 大阪府立大学 15.5点

<応援・競技に参加して頂いたOB・OGの皆様>

山口さん、木下さん、岡本さん、逢坂さん、大林さん、林さん、藤原さん、北川さん、武田さん、中田さん、赤坂さん、甲木さん、小池さん、中野さん、西野さん、山下さん、弓場さん、渡部さん

お忙しい中、お越しいただきありがとうございました。

3. その他の試合結果

第2回学連競技会 3月17日、18日 西京極陸上競技場

男子100m

男子200m	檜本 涼 (2)	24" 31 (-1.1)
	早川 哲史 (2)	23" 43 (-2.1)
	高田 昌人 (1)	23" 20☆ (-1.9)
	藤原 吉司 (1)	24" 87☆ (-1.9)

男子400m	高田 昌人 (1)	49' 82
	藤原 吉司 (1)	53" 61☆
	山口 裕太 (1)	52" 93☆
	伊藤 駿 (1)	50" 95☆

男子800m	甲木 孝弘 (4)	2' 00" 71
	中野 友揮 (2)	2' 00" 79
	伊藤 駿 (1)	1' 57" 16☆

男子1500m	遠藤 耀司 (2)	4' 21" 79☆
	大松 達也 (1)	4' 40" 03

男子5000m	高尾 信成 (2)	17' 30" 10
	勝見 涼一 (1)	17' 10" 13

男子10000m	山下 翔平 (4)	38' 29" 44
	北川 直昭 (2)	34' 58" 54
	小槻 日出夫 (2)	33' 47" 40☆

男子400mH	川越 俊幸 (2)	56" 67
	山口 裕太 (1)	58" 15

3000SC	北川 拓哉 (M1)	10' 13" 48	
	北川 直昭 (2)	10' 31" 98☆	
	西川 亮 (1)	10' 26" 36	
	二本松 立朗 (1)	10' 51" 33	
	村上 将悟 (1)	10' 37" 68	
走高跳	田中 英和 (3)	2m05	
	片岡 裕 (1)	1m90☆	
走幅跳	大黒 貴弘 (2)	5m84	(+0.8)
女子100m			
女子200m	宝徳 奈津美 (2)	26" 88☆	(-0.7)
	難波 真理 (1)	29" 46	(+2.0)
女子400m	宝徳 奈津美 (2)	59" 35☆	
第7回大阪体育大学競技会 3月20日 浪商学園陸上競技場			
男子100m	早川 哲史 (2)	11" 55	(+0.3)
男子200m	早川 哲史 (2)	23" 08	(+0.0)
男子走幅跳	仲西 穂高 (2)	5m87	(+0.6)
兵庫学生陸上競技対抗選手権大会 4月3日 長居第2陸上競技場			
3000SC	村上 将悟 (2)	10' 54" 11	
第1回大阪陸上競技記録会 4月6日、7日 長居第2陸上競技場			
男子1500m	甲木 孝弘 (M1)	4' 07" 71	
	西川 亮 (2)	4' 32" 86	
	村上 将悟 (2)	4' 20" 22	
男子5000m	甲木 孝弘 (M1)	15' 57" 76	

京都学生陸上競技対抗選手権大会 4月12日、13日 西京極陸上競技場

男子400m 高田 昌人(2) 49"49

男子800m 甲木 孝弘(M1) 2'01"62

中野 友揮(3) 1'58"72

伊藤 駿(2) 1'59"67

男子400mH 小川 潤(4) 58"74

川越 俊幸(3) 55"93

女子100m 宝徳 奈津美(3) 13"72(-4.4)

第2回強化・普及記録会 4月13日 鴻ノ池陸上競技場

男子走幅跳 大黒 貴弘(3) 6m58(-0.7)

第2回大阪陸上競技記録会 4月14日 長居第二陸上競技場

男子3000SC 北川 直昭(3) 10'53"51

兵庫陸上春季記録会 4月13日、14日 ユニバー記念競技場

男子1500m 甲木 孝弘(M1) 4'08"09

大阪陸上カーニバル 4月28日 長居第二陸上競技場

男子800m 甲木 孝弘(M1) 2'00"17

男子110mH 内賀嶋 陽史(4) 予15"30(-0.2)

決15"21(+1.3)

男子走高跳 渡部 翔太(M1) 1m90

田中 英和(4) 2m11☆

第2回大体大中長距離競技会 5月19日 浪商学園陸上競技場

男子1500m 大松 達也(2) 4'59"21

勝見 涼一(2) 4'43"69☆

村上 将悟(2) 4'38"07

男子5000m	勝見 涼一 (2)	17' 15" 10
	二本松 立朗 (2)	18' 02" 23
	村上 将悟 (2)	17' 40" 77

第2回大体大記録会 5月25日 浪商学園陸上競技場

男子走幅跳	大黒 貴弘 (3)	6m97☆ (+1.4)
-------	-----------	--------------

4. 各パート長あいさつ

短距離パート

いよいよシーズンが始まりましてここまで、大阪インカレ、三大戦、関西インカレと戦って参りました。短距離パートとしましては、この対抗戦の中で自己ベストを更新した選手も多く、サーキットを中心とした冬期練習での成果がはっきりと表れていると思います。関西インカレではマイルリレーでの決勝進出、しかし目標としていた表彰台に惜しくも届かず4位という結果に終わりましたが府大新記録を更新することができ、関西インカレでも十分に戦える力がついていると感じました。

個人種目では、3回生の宝徳、2回生の高田が順調に自己ベストを更新していき、こちらでも府大記録を塗り替えるという勢い溢れる選手が短距離パートを引っ張り、他の選手の良い刺激となり更なる飛躍が期待できます。

今回の関西インカレでは短距離は20点を目標に設定していましたが、結果は18点となりました。目標まで2点届かなかったものの、前年の8点と比べると確かに力を伸ばしているなど感じました。

短距離から部活全体を引っ張っていけるよう努力をしていきますので、これからもどうぞ応援よろしくをお願いします。

文責 短距離パート長 川越俊幸 (3)

中距離パート

中距離パートは2人という少人数ですが個々が高い目標を持ち、厳しい冬期練を積んできました。シーズンインに向けては中距離パートの2人とも800mの関西インカレA標準突破を目標にしてきました。結果としては、伊藤（2）が3月の記録会で自己ベストを大幅更新し関西インカレA標準を突破することができました。大阪インカレでは中野（3）が大学ベストを出すことができました。大阪三大学対校戦では伊藤は400m、中野は5000mに出場し、共に5位という結果になりました。関西インカレでは予選で中野は2着をしっかりと取ることができ、伊藤は自己ベストを更新しタイムで準決勝に進出することができました。2部でもレベルの高い800mでしっかりと次のラウンドに進めたのは大きな進歩だと思います。しかし、準決勝では共に8位という結果になってしまいました。まだまだ経験と実力が足りていないと痛感しました。また、4×400mRの2走を中野、3走を伊藤が走り府大新記録を出すことができました。短距離と力を合わせてさらに記録更新を狙いたいと思います。今後は個人で記録を狙いつつ、首都大戦や六公立戦で府大の勝利に貢献できるよう、意識を高くもって練習していきたいと思います。今後とも応援よろしくをお願いします。

文責 中距離パート長 中野 友揮 （3）

長距離パート

府大陸上部として3つの大きな大会が終わりました。大阪インカレでは全体的にはタイムは振るわなかったものの、下位～中位層にいた選手がベストを更新しました。三大戦では1500mは4位と6位、5000mでは4位と5位で阪大・市大に対して負け越す結果となりました。関西インカレは前年に比べ標準記録が上がったこともあり、出場できる選手も少なく、出場枠を大量に余らす形となりました。また、パートで得点を上げることができず、非常に不甲斐ない結果となってしまいました。これらの大会を通して活躍しているのは院生の選手ですが、7月の首都大戦での勝利のためには2・3回生が他校とも競える力をつける必要があると痛感しました。

長距離パートにとって最大の目標である駅伝予選会が10月にあります。今年からは開催地が変わり丹後半島での開催となります。また、本戦への出場枠が去年に比べて2校増えた12校となりました。しかし、去年の結果やこれらの大会からも決して楽観視できる状況ではありません。当面の目標は首都大戦での勝利ですが、常に予選会突破を意識して練習に励みたいと思います。応援よろしくをお願いします。

文責 長距離パート長 北川 直昭 （3）

フィールドパート

春の主要試合である大阪インカレ、三大戦、関西インカレが終了しました。例年の同時期に比べて気温が高く、暑さを感じる中行われた大阪インカレでは、自己ベストタイの記録を残す選手が出るものの全体的な記録は低迷しており、それぞれの選手に多くの課題が残りました。短期間ではありましたが、その課題を克服して臨んだ三大戦では、多くの選手が自己ベスト・好記録に恵まれました。女子砲丸投に出場した星合（2）は専門種目ではないながら、8 m 9 5の大会新記録を樹立しました。全体的な結果は三位でしたが、フィールドの部では大阪市立大学を振り切り二位を獲得することが出来ました。関西インカレでは、今年は男子走高跳から3名、男子走幅跳から1名、男子三段跳から1名、男子砲丸投から1名、女子やり投から1名、計7名の出場でした。結果としては、男子走高跳では田中（4）が1位、渡部（M1）が2位、男子走幅跳では大黒（3）が8位に入賞し、総合5位となりました。渡部が念願の2 mの大台に載せたことや、田中が昨年に続く優勝により二連覇を達成する等明るい話題もありましたが、全体的に見ると記録は落ち込んでおり、自己ベスト更新者は渡部ただ1人でした。全員が結果を出していればもっと順位を上げることができたと思うと、非常に悔しいです。しかし、シーズンはまだ始まったばかりです。この悔しさをバネに、首都大戦をはじめ様々な大会・記録会で全員が自己ベストを更新できるよう、これからも日々練習に努めます。今後とも応援よろしくお願ひします。

文責 フィールドパート長 大黒 貴弘（3）